

2012年7月4日

茨城大学学長

池田幸雄 様

NPO法人アサザ基金

代表理事 飯島 博

## 霞ヶ浦の放射能汚染対策に関する協働のお願い

貴大学が霞ヶ浦の放射能汚染対策に関する研究体制を強化される方針と聞き、5月22日付けで協働をお願いする文書を送らせていただきました。その後、ご連絡をいただいておりますので、再度送らせていただきます。

霞ヶ浦は今放射能汚染というこれまでに経験をしたことの無い難問に直面しています。2200平方キロメートルある広大な流域から56本ある流入河川に移動した放射性物質が徐々に霞ヶ浦に流れ込み蓄積しつつあります。このような前例のない事態に対処するために、わたしたちは社会の縦割りを越えた多様な組織や人々の協働が不可欠であると考えています。

この難局を乗り切るためには、多様な分野から英知を結集することが不可欠であり、新しい発想が求められています。大学や研究機関、企業、住民等が有する優れた技術を取り入れ、湖への放射性物質の流入阻止や除染等に活かしていくことが必要です。

霞ヶ浦は水道水をはじめ農業用水、工業用水の水源地であり、漁業も営まれています。この霞ヶ浦で放射能汚染が深刻化すれば、社会への影響は計り知れません。わたしたちNPOは、何とかして影響を最小限に食い止めたいという思いから、様々な組織や団体に協働を呼びかけ、3月から市民によるモニタリングを霞ヶ浦の全流入河川（150ポイント以上で底泥を採取）で実施してきました。しかし、市民による取り組みにも限界があることから、大学や研究機関へモニタリング等への協力を呼びかけてきました。

そのような折に、新聞報道をとおして貴大学が霞ヶ浦の流入河川でのモニタリング等を流域市民との協働で実施する計画であることを知り、たいへん心強く感じているところです。

NPO法人アサザ基金は、1995年から霞ヶ浦再生を目指して、農林水産

業、企業、学校、研究機関、生協、自治会などの多様な主体の協働によるネットワーク型事業を実施してきました。今回わたしたちは、これまでに築いてきたネットワークを霞ヶ浦の放射能対策に活かしていきたいと考えています。

そこで、専門の研究者を有する貴大学が今回計画を発表された霞ヶ浦流入河川のモニタリング等の取り組みに、わたしたちも連携・協力をさせて頂くことはできないかという思いからこの文書による協働の要望を致しました。

わたしたちの提案について、ご検討いただきますよう宜しくお願い致します。

尚、7月22日（10時～12時）に土浦市民会館小ホールにて、市民モニタリング報告会を開催致します。茨城大学地域総合研究所 客員研究員 二平章氏の講演のほか、霞ヶ浦流入河川底泥中の放射線量調査報告や様々な活動をされている市民の方々のメッセージをいただく予定です。貴大学からも関係者の方々に是非ご登壇いただき、3分間のメッセージをいただければ幸いです。

それでは、宜しくご検討くださいますようお願い申し上げます。

連絡先 NPO 法人アサザ基金事務所

〒300-1222 牛久市南3-4-21

でんわ 029-871-7166

メール [asaza@jcom.home.ne.jp](mailto:asaza@jcom.home.ne.jp)

担当 諏訪